

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに事業計画とともに理念の勉強会をしている。共有はできていると思えるが、実践と言う点で行事計画などの段階で振り返らなくてはいけないと考えている。	法人やホームの理念がスタッフルームに掲げられている。年度初めに理事長から全職員に理念についての話があり、その理念にある「ここにあるのは私の暮らし」が利用者にとってそうであり続けるため、職員会やカンファレンスの中で話し合いを重ね、利用者や家族の思いに応えられるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御柱祭山出しの見学に行ったが、宮川地区の小宮祭りでは区長やご家族から情報をいただき、御柱を引く時間に合わせて出かけた。地域の子供たちが花笠踊り、木遣り、長持ちを見せに来て下さった。	区費を納め自治会の一員として活動し、地区の情報を頂いている。本年度は御柱祭があり、地域との交流が盛んに行われ、子供達が木遣りや長持ちを披露し利用者に喜ばれたという。近くの保育園の園児との交流も定期的に行われ利用者も楽しみにしている。高校生の職場体験やボランティアの来訪もあり、地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力は活かしきれていない。運営推進会議で助言をいただきながら、どうすれば地域に貢献できるか模索中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活発に意見が出され、今後の取り組みに向けてのアイデアもある。それを活かすところまでいっていないので上記同様今後の課題である。	3ヶ月に1回、複合施設として、利用者、家族代表、公民館長、民生委員、商店街代表、広域連合職員、介護相談員等、総勢15名以上が出席し開催している。出席者から積極的な提案や助言を頂き、複合施設全体を良くしようとする前向きな会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅サービスである小規模多機能も併設しているため、市町村の担当者や会う機会が多い。広報誌も使いながらグループホームの取り組みも伝えている。	介護認定調査には市の担当者が来訪し、家族同席の上実施している。市主催の事業所連絡会に参加し、情報の共有化を図っている。月1回2名の介護相談員の来訪があり利用者の話を聞いていただき、広域連合からも書類での報告があり支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、全職員を対象に身体拘束廃止の研修を実施。利用者様の状態に代合わせて柵、ベッドの位置をその都度検討している。	「ここにあるのは私の暮らし」を支援の基本とし身体拘束をしないケアが「あたりまえ」と考え、新人研修や職員研修にも必ず身体拘束ゼロに向けての研修を行い実践している。言葉の拘束ゼロにも力を入れ、精神面での勉強をしている。現状は外出願望の強い方もなく入口は開錠されている。家族に話をして転倒防止や良眠確保のため夜間センサーマットを使用することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、全職員を対象に虐待防止の研修を実施。グループホームでは言葉の虐待について考え、声かけが利用者様のストレスになっていないかカンファレンスを行っている。		

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」や「日常生活支援事業」の研修を組み入れたいと思ってきたが、今現在対象者がいないと、学ぶことが沢山ある中で、優先順位が低くなってしまって時間がとれないでいるのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携の体制等については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、要望は宝。聞こうと思わなければ聞こえてこないで、どんな些細なことも言っていたり、常日頃から、こちらから声をかけている。利用者本人から言って下さった時はその内容を家族にもお話ししている。内容は運営推進会議で報告している。	運営推進会議に家族代表の参加もあり積極的な意見を頂いている。家族の来訪はそれぞれの都合で毎日の方から年3・4回の方など様々であるが、来訪時には職員から声を掛け些細なことも話していただけるよう努めている。ほとんどの利用者が自らの要望を伝えることができ、一人ひとりの気持ちを汲み取るよう努めている。家族会の立上げを事業計画に入れ進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の複合施設会議には三事業所の代表が出席し、意見や提案を出し合っている。毎年、全職員を対象に管理者、理事長との個人面談を行っている。働き方の希望、将来への方向性等聞くことができた。	月1回の職員会議と月2回のユニット会議など、話し合いの機会を設け、意見や提案を出し合っている。年度初めに各職員は資格取得等の年間目標を立て理事長や管理者と個人面談を行いスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの見直し、就業規則の整備を行った。処遇改善手当の効果的な支給にあたり、今後は評価制度を取り入れ、やる気のある人が仕事ぶりに見合せて昇給していただけるような環境づくりを進めつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全職員対象の研修を実施しているほか、資格取得を目指す職員にはその応援制度がある。無資格の人は労働局の助成制度を活用し、6か月間の有期実習型訓練を実施。働きながら介護福祉士取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所、グループホーム連絡会に加盟した。研修会の中での交流はあるが、相互訪問等は実施していない。		

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では本人に会って、心身の状況や本人の気持ち、環境、何に困っているのか等、細かく教えていただき、入所初日は面談した職員が対応し、安心して新しい家に入ってこられるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、ご家族の困っていること、不安なこと、要望等ゆくり細かくお聞きする。その上で、私たちにできること、出来ないこと、ご家族に協力していただきたいこと等も伝え、「協力し合って利用者本人の生活を支えていきましょう」というお話をします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた段階で、その方が本当にグループホームが良いのか、それとも他のサービスで在宅生活が可能ではないのかという視点で関わり、実際、他の在宅サービスを選択された方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人の力を活かし、食事づくり、洗濯物を干す、たたむ等、暮らしの中でできることはやってもらい、一人ひとりに合わせたケアを行っている。実際、季節行事では教えてもらう場面も多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お風呂に入りたがらない方がいるが、息子や嫁さんの声掛けなら安心して入浴される。入所以来、声掛けの協力をしてもらっている。息子さんのお話を聞けば安心する方にはいつでも電話に出てもらおう等、気持ちよく協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に出かけられなくなった方には施設に訪問美容に来てもらったり、毎月娘さんと整体に通っている利用者もいる。毎日新聞を届けに来るご家族には爽やかな朝の挨拶や世間話が欠かせない。	親戚や近所の方、教え子が来訪し会話も弾んでいる。毎月、ホーム利用前から通っている整体を身内の方の送迎で継続している利用者もいる。美容院に行かれなくなった方については訪問美容に来ていただき、既に顔馴染みの関係となり喜ばれている。ホームを利用したことで幼馴染と一緒に喜んでくれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子を見ながら利用者様同士の相性、居心地の良さを考慮し、食事席を考えたり、活動中も交流が図れるよう声掛けあったりしている。		

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合でも(特養への移動3名あり)利用者の状況や様子を口頭や書面で伝え、連携に努めている。時には本人に逢いに行ったり、ご家族とも面会時、会話する等、経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の言葉から気持ちをくみ取っている。「ここにあるのは私＝本人の暮らし」本人はどうしたいのかを常に頭に置いてカンファレンスし、ケアにあたっている。	ほとんどの方が思いを伝えられる。利用者の得意なことや役割を生活の中に取り入れ、心の中の思いも行動を見て支援できるよう努めている。包丁を使うことが得意な方には干し柿作りを、また、食事、おやつ作り、後片付け、洗濯物たたみ等、「私のできること」に沿って日常生活の中でお手伝いをさせていただいている。利用者のそれぞれの思いを記録に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式の暮らしの情報シートへの記入依頼をするが、入所後、本人から聞き取ったことを記録に残し、皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、生活のリズムやその日の体調や気分の変化に気を配り、スタッフ間で口頭や記録で情報を共有し、現状の把握に努めている。何がどこまでできるか常に観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1～2回のカンファレンスを実施し、ケアの方法やプランの見直しを行っている。毎回ではないがご家族にも参加していただき、意見を聞いている。	職員1人が2人の利用者を担当している。計画作成がユニットごとに行えるように勉強を重ねている。介護計画については家族にも意見を聞きプランを立て、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。家族との話し合いで記録も見えていただき、内容を詳しく知っていただくことで現状を理解していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は気づき、関わりを中心に個別に記録されており、職員間で情報の共有がなされている。また、個別の健康管理台帳もあり、日々の健康面の変化に気づきやすい。介護計画はそれらの情報をもとに見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況や外出計画、家族の都合のつかない方の受診の付き添い(眼科、歯科等)、車いす利用の方の病院への送迎等、その時の必要に応じて柔軟に対応している。		

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行き、カートを押して品物を選ぶ、保育園の運動会に出かけて行って、プログラムの一つに参加する等、外に出かけることでリフレッシュを図っている方も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は在宅の時からのかかりつけ医に継続してかかっている。家族の事情に合わせて、受診と往診の両方で対応している。医療面で心配な時は電話やFAXでいつでも相談できるので家族も安心されている。	入居前からの主治医を継続されている方は全利用者の三分の一ほどで、家族が受診の対応をしている。協力医の月1回の往診を受けている。ホームには看護師がおり、複合施設の看護師との連携も取り24時間体制で対応している。歯科も必要に応じ依頼すれば往診が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、医療連携体制を整えている。介護職員は利用者の体調を把握し、気づいたことを看護師に報告し、連携をとっている。複合施設なので同一敷地内他事業所の看護師の協力もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になるときは主治医から入院の協力医療機関へ連絡を入れ、スムーズな受け入れができています。医療連携相談室とも連絡はスムーズなので、状況、退院日の把握、退院後の注意点等、必要な情報はすぐわかるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて対応していくことを看取りに関する指針として、契約時に説明し、意向の確認をしている。職員は看取り研修を受け学びを深めている。主治医と連携を取り、家族への説明の場を作り、看取りプランの計画実施を行っている。	看取りに関する指針があり、利用契約時に説明し意向の事前確認書を頂き、直面した時に看取りケアプランを作成し実施に移している。開設以来3名の看取りを経験しており、その時には利用者も皆でお見送りをしたという。外部講師による研修会もあり、看取りの考え方についての知識を深め、的確な対応ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の研修を職員全員が受けている。特に消防署員による救急法は毎年数名ずつ3時間講習を受け、全員が受けられるようになっている。今年度、緊急時対応のマニュアルが整備され、マニュアルをもとに訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、利用者参加の避難訓練を行っている。訓練後、事業所で振り返りを行い、対策を共有している。地域との防災協定はまだない。	年2回消防署の協力を得て防災避難訓練を実施している。緊急連絡網を使っでの通報訓練や夜間想定訓練も年1回行い、全員非常口まで避難をしている。スプリンクラーも設置されており、火災通報装置なども完備している。地域との防災協定も結べるよう取り組み始めている。	

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所時、どういふ呼ばれ方をしたいか確認し、本人又は家族の希望する呼び方で呼んでいる。依頼型の言葉かけは「誠心会のこころ」に記されており、基本であるが、親しみが馴れ合いにならないように注意している。	プライバシーについての研修を行い、特に言葉掛けに注意し、あたたかな依頼型の丁寧な言葉遣いで声掛けを行っている。職員がされて嫌だと思ふことや行動をしないよう努めている。ホームでの利用者への呼び掛けについては入居時、本人や家族の希望を聞き対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分から希望を言うことが難しい方には職員から声をかけるようにし、常に自己決定できるような声掛けに努めている。服を選ぶ、食事を選ぶ、時間を選ぶ、やりたいことを選ぶ等、自分で決めることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごしたい方、ホールで過ごしたい方、テレビを見たい方、横になりたい方、それぞれに過ごしていただいている。何かをするときには希望を聞き、訴えがあるときには話を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	音からきているお気に入りの服、ご自分で作った服、形見だからと毎日着ている方もいる。服を選べる方には選んでいただいている昔はしたことのないマニキュアを塗って、とびっきりの笑顔を見せる103歳の方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームで作る昼食は、まず、メニューを掲示し、楽しみにしてもらっている。作るとき、一緒にできる所は行い、下膳、食器洗い、食器拭き等も一緒にしていただいている。	朝、夕食は複合施設の厨房より提供されるが、昼食は栄養士が献立を立て利用者と食事作りを行っている。レシピには作り方が書かれ、わかり易くなっている。利用者と近くのスーパーに買物にも行き、片付け、洗い物、食器拭き等、できる方には協力を頂いている。ほとんどの利用者が箸やスプーンで自力摂取できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が1日を通して一目でわかるよう健康管理台帳に記入してあり、朝摂れなければ10時に、といった形で水分摂取量に気を付けている。普通食の摂取が難しくなった方には食事形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて、毎食後、自室洗面台にて一人ひとりに合った物品や方法で口腔ケアを行っている。その際、口腔内の状態把握にも努めている。		

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が見られる方には排泄記録をつけ、パターンを把握し、声かけで随時の誘導ができるよう努めている。使用する物品は一人ひとりに合わせて職員同士で検討あっている。	各居室にトイレがありスペースも広く、排泄表に記し情報を共有し対応している。ほとんどの方が一部介助で、布パンツ、リハビリパンツ、パットを使用している。一人ひとりにあった紙パンツやパットなどの検討を行っており、夜間のポータブル使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	苦手でない方には、毎食事牛乳の提供とヨーグルト類も比較的回数多く提供している。レクリエーションや、歩行訓練等、運動する時間をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は表としては作成するが、午前、午後の希望を聞き作成し、その日の体調や気分を確認して入浴出来るようにしている。外の景色を見ながらのんびりと入浴していただいている。	ほぼ全員の方が一部介助であり、少なくとも週2回の入浴を行っている。3日入られる方もおり入浴を楽しみにしている。浴室は十分なスペースがあり窓も広く、八ヶ岳を眺めながら入浴ができる。季節に応じた菖蒲湯、かりん湯などで香を楽しみ、諏訪の足湯にも出かけている。入浴拒否のある方には家族の協力を得て声掛けをしていただくなど工夫し、入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡として短時間だけ横になっていただいている。就寝時間がまちまちでテレビを見てから寝る方、娘に電話をかけてから寝る方、自由な時間に寝ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々のファイルに整理しており、いつでも確認できるようになっている。名前、時間日付を読み上げ服薬ミスのないよう努めている。服薬変更があったときは体調の変化の確認に努め、看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、好きなことを活かせるよう活動を提供している。役割を持つことで自信や活力につなげることができる方には、洗濯物たたみ、食器洗いや食器拭き等、手作業をお願いすることが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買い物に行くときに、天気や体調を見ながら、その日行きたいという方を誘っている。施設前の道路が整備され、近くの神社のある公園に出かけやすくなった。家族、地域の協力はなかなか得られていない	御柱祭には御柱山出し見物や御柱屋敷にも行き7年に一度の御柱を見ることができた。年間行事として春にはお弁当を持ち運動公園にお花見に、秋には塩尻へぶどう狩りに行き沢山頂いたという。外食は回転ずし、食堂等に出かけている。近所のスーパーへの買物や神社の公園への散歩が日常的に行われている。	

グループホームアイリス茅野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持している方もいる。管理の難しい方が殆どなので、事務所でお金を預かっている。買い物に行ったときには、それを本人に渡し、本人がお金を支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあるときにはいつでもかけている。ご家族には理解していただいている。また、本人が携帯を所持し、毎晩娘へかけている方もおり、充電等職員が気を付けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は落ち着いた色が使われており、外の景色もよく見え、明るくゆったりとした造りになっている。また、季節感のあるものを飾ったり、温度、湿度の調整を行い、快適な環境で生活できるよう支援している。	和風旅館を思わせる複合施設であり、エレベーターを降りると2ユニットのホームがあり落ち着いた色で統一され台所も広く使いやすい。広い共用部分の大きな窓からは山の景色が一望でき日差しも入り爽快で、保育園児の遊ぶ姿も見ることができる。空調はエアコンと床暖房が併用され利用者は一日を快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には木のぬくもりのテーブルと椅子が置かれ、時々外を見入っている方もいる。テレビ前のソファー席は昼寝する人もいたり、歌謡コンサートの時は何人かで並んで座って見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ベッドと備え付けの物入れ以外には使い慣れたものを持ち込んでいただくようお願いし、タンス、テーブル、椅子、コタツ等、個々にセットしてある。	各居室には洗面台、トイレ、クローゼットが完備され広さも充分にある。日差しが入る広いガラス窓、壁にも小窓がありベランダにも出られ、景色を眺めることができる。タンスやテーブルが持ち込まれ、炬燵を置き過ごされている利用者もおり「ここを我が家」として思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーの造りになっていて、廊下・食堂以外にも共用のトイレや浴室等随所に手すりを設置している。キッチンを利用者が使いやすいよう低めの高さにしてある。		